

2025 JUA/EAU Resident Programme 参加報告

梶 村 光 貴（自治医科大学とちぎ子ども医療センター小児泌尿器科）

この度、JUA/EAU Resident Programme の一員として、2025 年 3 月 20 日から 25 日まで、スペインの首都マドリードで開催された 40th Annual EAU Congress (EAU25) に参加させていただきました。私にとっては初めての海外学会への参加で、出発前から緊張と興奮の連続でした。

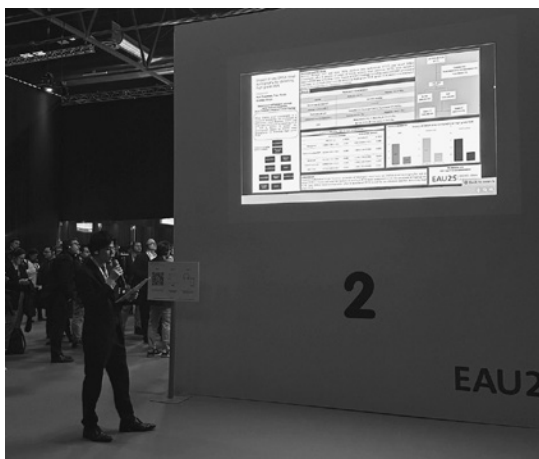
今回のプログラムでは、初の試みとして現地マドリードの Clinico San Carlos Hospital での病院見学を組んでいただきました。非常に歴史ある病院であり、マドリードで初めて Da Vinci が導入された病院でもある Clinico San Carlos Hospital で 2 件の RARP と RARC を見学しました。さすがに縦 3 件のロボット手術は通常組まないようですが、私達が来院することもあるのか（？）、多くの手術を見させていただきました。また、手術の合間を縫って、上級医による HoLEP の Tips & Tricks や、前立腺癌治療における EAU25 での変更点など最新の知見を直に学ぶことができました。夜には Real Madrid の本拠地である Santiago Bernabeu でピッチを見ながらスペイン料理をいただくという、貴重な経験もさせていただきました。

EAU25 で特に目を引いたのは、やはり巨大なスクリー

ンを使って行う Live Surgery でした。これまで執刀したことのある手術を中心に参加していたこともあり、詳細な英語は聞き取れなくとも言わんとしていることは理解することができ非常に勉強になりました。やはり RARP での尿禁制に関するテクニックはいまだ議論が続いており、術者とコメンテーターの議論が熱かったのもその行程でした。

また、幸運なことに EAU25 では演題発表の機会をいただいた為、「Impact of late DMSA renal scintigraphy for detecting high grade VUR」という演題名でポスター発表をさせていただきました。英語を話すのに必死であり、緊張のあまり良い発表ではなかったと思いますが、成長する上で大変貴重な経験になったと思っています。

最後となりますが、本プログラムに参加させていただく機会を与えてくださいました、JUA, EAU 両学会関係者の皆様、このような素晴らしいプログラムの御提案から御推薦までいただきました山梨大学三井教授、現地コーディネーターの Dr. Juan Gomez Rivas に、この場をお借りして御礼申し上げます。今後もこのプログラムを通じて若手医師が国際的に交流することで、EAU・JUA が共に発展していくことを祈念いたします。



ポスター発表時の筆者



Clinico San Carlos Hospital にて、現地レジデントや上級医との一枚